安全・安心道路整備事業一般県道花園藤野線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

七尾市

花園上田遺跡

２００７

石　川　県　教　育　委　員　会

(財)石川県埋蔵文化財センター

花園上田遺跡
はなぞの　うわだ

２００７

石　川　県　教　育　委　員　会

(財)石川県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は花園上田遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡は七尾市花園町・黒崎町に所在し、調査地は黒崎町地内である。

3　調査原因は安全・安心道路整備事業一般県道花園藤野線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成17(2005)年度および平成18(2006)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

5　調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。

6　現地調査は平成17年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間　平成17年10月13日～同年11月11日

面　積　600㎡

担当課　調査部調査第３課

担当者　澤辺利明（調査専門員）、永下賢太（嘱託調査員）

7　出土品整理は平成18年度に実施し、企画部整理課が担当した。

8　報告書刊行は平成18年度に実施し、調査部調査第３課が担当した。報告書の執筆・編集は澤辺が行った。

9　調査には下記の機関・個人の協力を得た。

石川県土木部道路整備課、石川県中能登土木総合事務所、七尾市教育委員会、戸澗幹夫

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書の凡例は下記のとおりである。

(1) 方位は磁北である。

(2) 水平基準は海抜高であり、Ｔ．Ｐ．（東京湾平均海面標高）による。

(3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

12　本報告書を作成するにあたり、以下の文献を参考にした。

七尾市史編纂専門委員会　1970　『七尾市史』資料編第４巻　七尾市役所

石川県教育委員会　1974　『七尾市大野木タキシロ遺跡』

近藤義郎　1984　『土器製塩の研究』

七尾市教育委員会　1991　『七尾カントリー倶楽部事業計画区域内埋蔵文化財分布調査報告書』

石川県立埋蔵文化財センター　1992　『石川県遺跡地図』　石川県教育委員会

七尾市教育委員会　1993　『大野木タキシロ遺跡発掘調査報告書』

南大呑郷土誌研究部会　1993　『南大呑郷土誌』　七尾市南大呑公民館

近藤義郎編　1994　『日本土器製塩研究』

南大呑のれきし編纂委員会　1996　『大呑のれきし』　七尾市

七尾市史編さん専門委員会　2002　『新修七尾市史』１考古編　七尾市役所

目　　次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
第３章　調査の結果 …… 4
　第１節　概　　要 …… 4
　第２節　検出遺構・遺物 …… 7
　第３節　小　　結 …… 8

挿図目次

第１図　工事計画と調査区の位置（S=1/1,000） … 1
第２図　遺跡位置図 …… 2
第３図　調査区位置図（S=1/10,000） …… 2
第４図　周辺の遺跡（S=1/30,000） …… 3
第５図　調査区全体図（S=1/200）・
　　調査区南東壁土層図（S=1/40） …… 4
第６図　２区SB1周辺遺構図（S=1/60） …… 5
第７図　出土遺物実測図（S=1/3） …… 6

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 3
第２表　出土遺物観察表 …… 7

図版目次

図版１　上左　遺跡遠景（南東から）
　　上右　発掘調査着手前の状況（西から）
　　中左　遺構検出状況（東から）
　　中右　発掘作業風景（南東から）
　　下　　完掘状況（東から）
図版２　上　　完掘状況（南西から）
　　下　　２区SB1周辺完掘状況（南東から）
図版３　上　　３・４区完掘状況（南西から）
　　下　　調査地から富山湾を望む（北西から）
図版４　　出土遺物

第１章　調査の経緯と経過

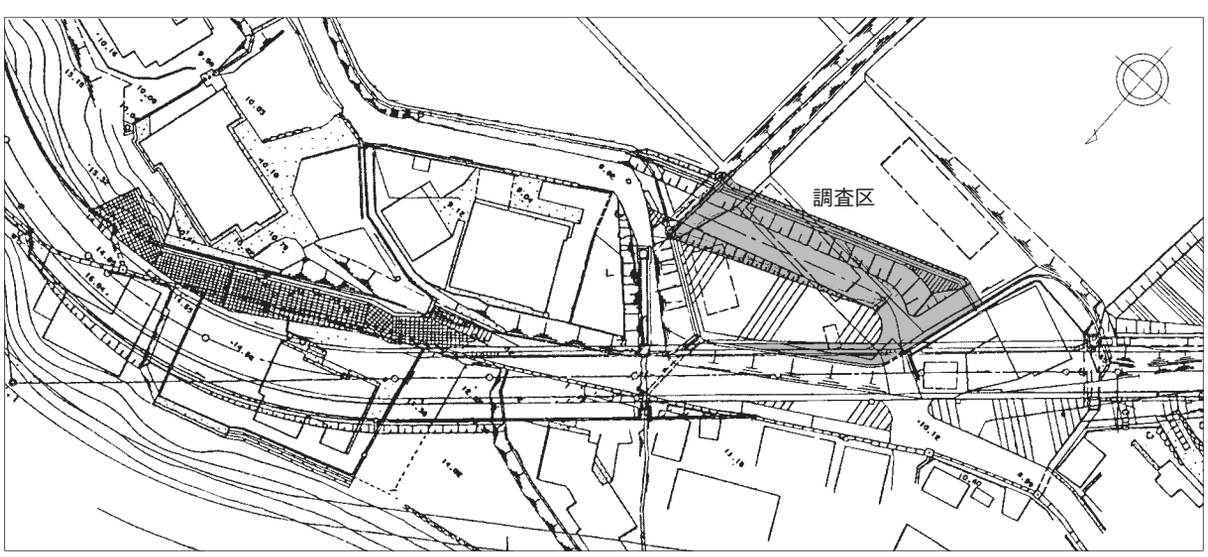
１．調査に至る経緯　調査原因は県土木部道路建設課所管の安全・安心道路整備事業一般県道花園藤野線である。県道花園藤野線は、富山湾に面した七尾市黒崎町で国道160号線から分岐し、七尾城跡を擁する石動山系を越え、七尾市街地の藤野町にいたる道路であり、花園町、山崎町域では狭矮な集落内を避け、熊淵川沿いの水田中へ付け替えが計画されたものである。

石川県教育委員会文化財課では毎年、関係部局に対し次年度実施予定の事業内容の照会を行い、各事業について埋蔵文化財の保護が図られるよう調整を行っており、上記道路整備事業計画についても道路建設課と協議しながら、順次、区域内での分布調査を進めていった。本遺跡については周知の埋蔵文化財包蔵地「花園上田遺跡」に近接したことから遺跡の存在が予想されたものであり、平成15年９月９日および同年12月22日に実施された分布調査により遺跡の確認とその分布範囲決定が行われた。確認された遺跡の取り扱いについては文化財課と道路建設課の協議の結果、計画変更が不可なことから事前の発掘調査による記録保存とすることとなった。

２．現地調査　道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成17年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施し、調査部調査第３課澤辺利明・永下賢太が現地調査を担当した。

平成17年９月21日に中能登土木総合事務所、文化財課、財団法人石川県埋蔵文化財センターとの間で現地協議を行い、調査範囲、ユニットハウス設置場所、駐車場所等を確認した。10月13・14日に重機による表土除去を行う。14日からは作業員を投入し、発掘調査機材搬入、ユニットハウス周辺整備を行った。10月17～19日に包含層掘削、遺構検出を行い、19日に遺構検出状況写真撮影。同日より遺構掘削を開始し、10月26日までに完掘、同日完掘状況写真撮影実施。10月31日～11月２日に補足調査、遺構平・断面図作成、発掘調査機材撤収準備を行い、11月７日に現場埋め戻しを実施。11月11日までにハウス等を撤去し現地調査を終了した。

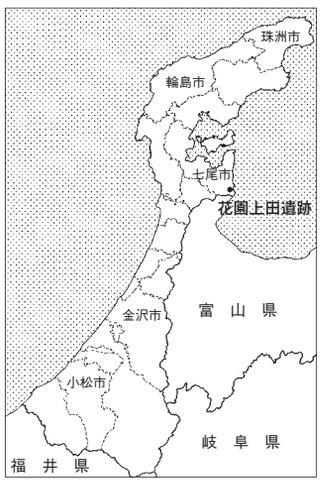
３．出土品整理・報告書刊行　道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成18年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。出土品整理は企画部整理課が担当し４月３日～４月12日に実施、報告書刊行は調査部調査第３課が担当した。



第１図　工事計画と調査区の位置（S＝1/1,000）

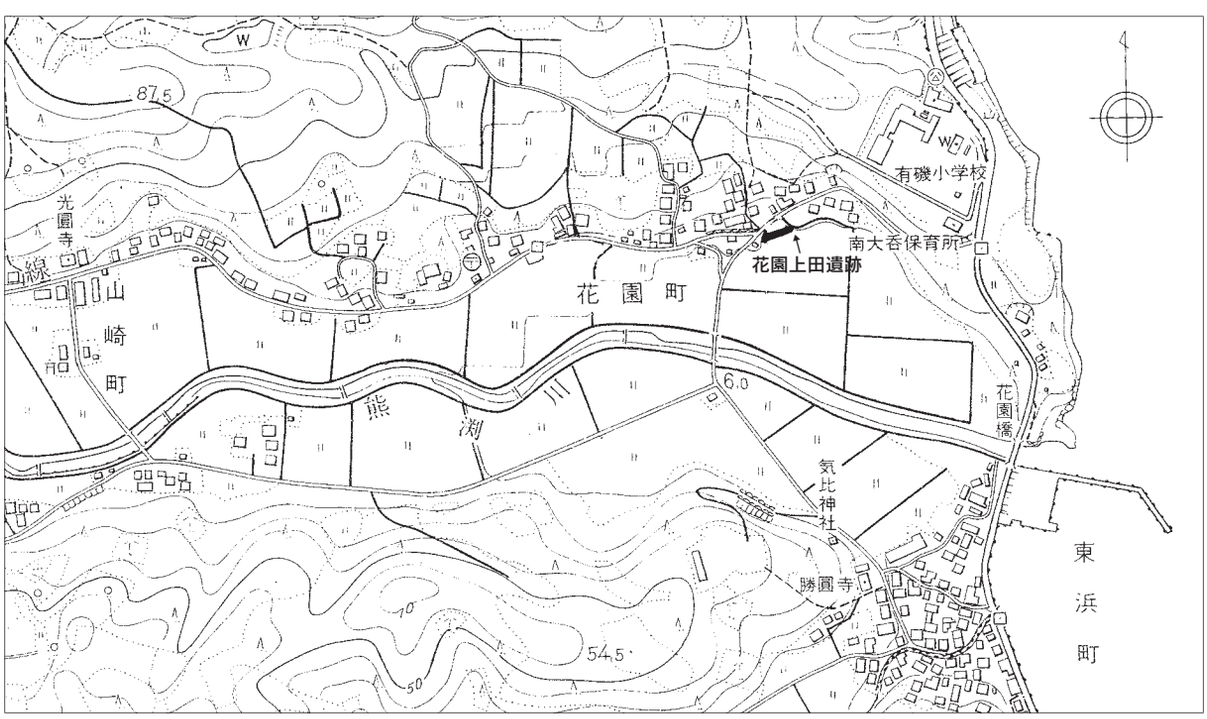
第２章　遺跡の位置と環境

１．遺跡の位置　石川県は本州のほぼ中央にあって、日本海に突き出た能登半島を擁する。能登半島の北半は岩場が多くを占めるが、南半は、九頭竜川や手取川等の大河川からの流出土砂によって形成された砂丘が発達している。七尾市は能登半島の中程東側に位置し、平成16年10月に七尾市と田鶴浜町、中島町、能登島町が合併し誕生した人口約６万２千人の能登の中核都市である。遺跡の所在する南大呑地区は七尾市の南東端、富山湾に面した通称「灘浦海岸」の南半部に位置し、南を富山県氷見市に接する。三方を山に、残る一方を富山湾に囲まれた中山間地であり、地区中央を市内で最も大きな河川である熊淵川が流れ、細長く伸びる小扇状地を中心に県道花園藤野線に沿って大小９集落が営まれている。遺跡は熊淵川左岸、花園町北東端の河岸段丘上に立地し、調査区域は黒崎町地内であるが、遺跡の大部分は花園町域に分布する。河口からの距離は約500ｍ、晴天には富山湾越しに立山連峰が望まれる。



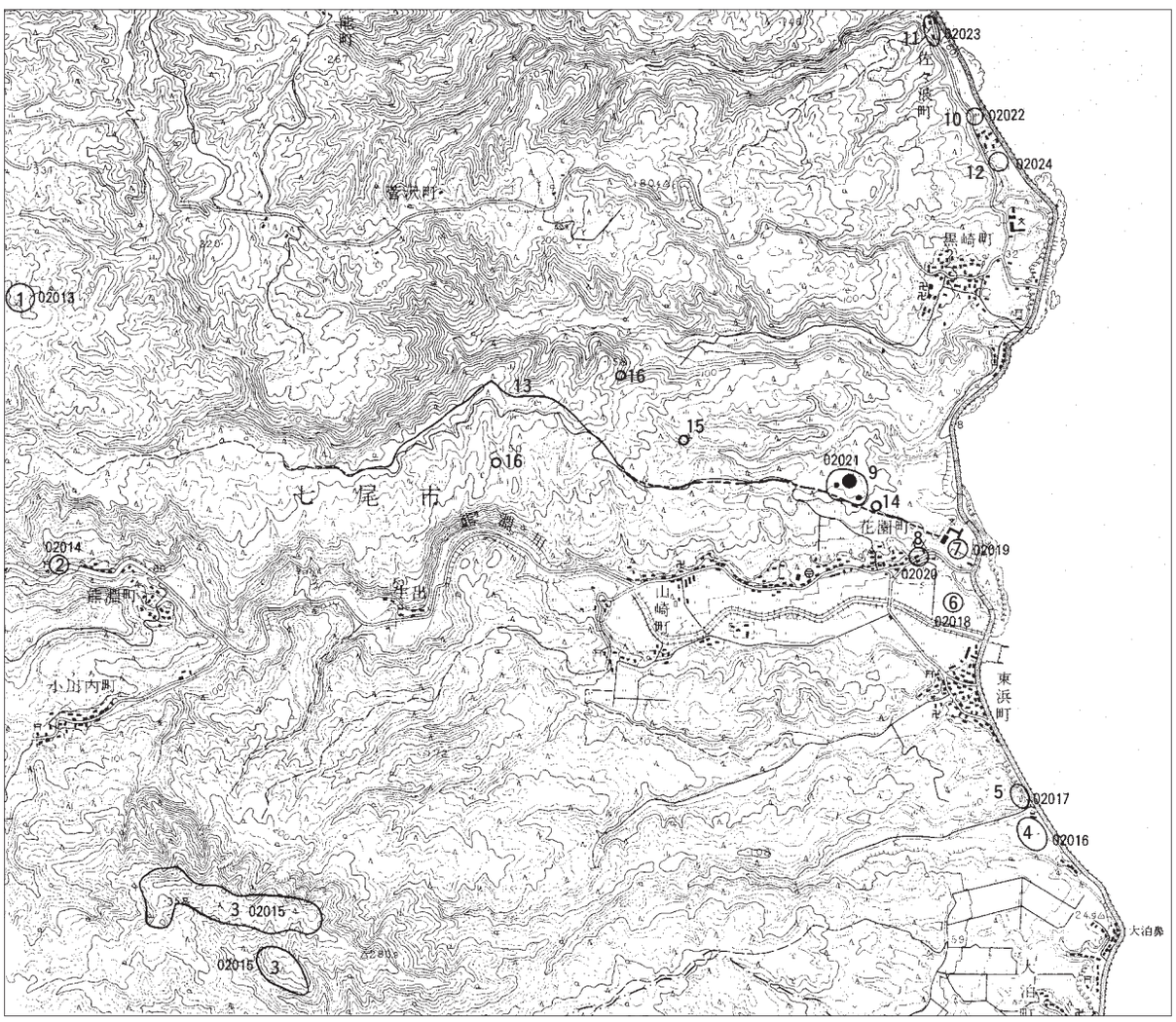
第２図　遺跡位置図

２．遺跡の環境　調査地周辺は、遺跡立地適地の丘陵裾緩斜面が現集落と重複しているためか、周知の遺跡は多くない。標高約360ｍに位置する水上ロクンダン遺跡（１）は牧草地開拓に際し発見された縄文時代前期中葉の遺跡である。花園上田遺跡背後の熊淵川流域を見下ろす丘陵斜面に位置する花園円山古墳群（９）は３基の円墳からなり、現在のところ灘浦海岸沿いで発見されている唯一の古墳群である。計画は中止されたが、南大呑地区内でのゴルフ場建設に伴い平成３年に試掘調査が実施され、１号墳東側斜面採取の土師器から５世紀前後の築造が推定されている。灘浦海岸沿いには多数の製塩遺跡が分布すると予想され、佐々波Ａ遺跡（10）、佐々波Ｂ遺跡（11）、佐々波Ｃ遺跡（12）、



第３図　調査区位置図（Ｓ＝1/10,000）

大泊遺跡Ａ（４）など古墳時代後期から平安時代にかけての遺跡が知られる。花園遺跡（７)は有磯小学校の建つ台地上に分布する奈良・平安時代の遺跡であり、花園薬師遺跡（６）は付近に薬師寺があると伝えられ、中世の珠洲焼等が出土している。大泊後藤山砦跡（３）は標高約350ｍの尾根上に築かれた七尾城の支城の一つであり、富山湾方面の監視の役割を果たしていた。熊淵藤原弾正屋敷跡（２）からは江戸時代の陶磁器が大量に出土している。また、ゴルフ場計画に伴う踏査では、一部消滅するものの黒崎町から七尾城までの８km間で尾根筋を空堀状に掘削した代官道路（13）または殿様道と称される山道が確認され、室町・戦国時代に七尾城へ物資輸送に供した、あるいは、江戸時代に代官が通ったとの伝承がある。ほか、昭和期のものを含み炭窯３基（14～16)、通称“オカノヤチ”地内（16）では室町時代の珠洲焼壺、花園円山古墳群周辺では中世の山茶碗が採集されている。



第４図　周辺の遺跡（S＝1/30,000）

番号	県遺跡番号	名　称	所在地	立地	時代	備考
1	02013	水上六郎谷遺跡	七尾市熊渕町	丘陵	縄文	開拓地、炉址らしき配石遺構ありという
2	02014	能渕藤原弾正屋敷跡	七尾市能渕町	山腹	近世	1979 年確認
3	02015	大泊後藤山砦跡	七尾市大泊町	山頂	中世	1977 年発見、付近に「城屋敷跡」あり
4	02016	大泊Ａ遺跡	七尾市大泊	丘陵緩斜面	奈良・平安	畦畔に包含層露出
5	02017	大泊Ｂ遺跡	七尾市大泊町	台地	不詳	
6	02018	花園薬師遺跡	七尾市花園町	平地	中世	北方丘陵上に薬師寺跡ありという
7	02019	花園遺跡	七尾市花園町	台地	奈良・平安	

番号	県遺跡番号	名　称	所在地	立地	時代	備考
8	02020	花園上田遺跡・黒崎町	七尾市花園町・黒崎町	台地	不詳	
9	02021	花園円山１～３号墳	七尾市花園町	丘陵斜面	古墳	１号墳は円墳（径 47m, 高 6.4m）二段築成
10	02022	佐々波Ａ遺跡	七尾市佐々波町	丘陵端・海岸	古墳	道路改修工事により一部損壊
11	02023	佐々波Ｂ遺跡	七尾市佐々波町	丘陵端・海岸	古墳	宅地化のため損壊
12	02024	佐々波Ｃ遺跡	七尾市佐々波町	丘陵端	不詳	
13		代官道路	七尾市黒崎町ほか	丘陵	戦国～	一部林道等により破壊
14～16		（炭窯）	七尾市花園町ほか	丘陵	不詳	現代の炭窯含む
16		（オカノヤチ地内）	七尾市黒崎町	丘陵	室町	珠洲焼採集

第１表　周辺の遺跡一覧表

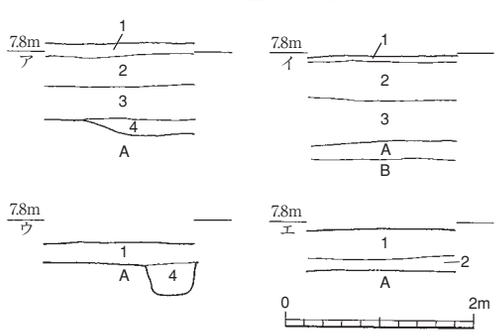
第3章　調 査 の 結 果

第1節　概　　要

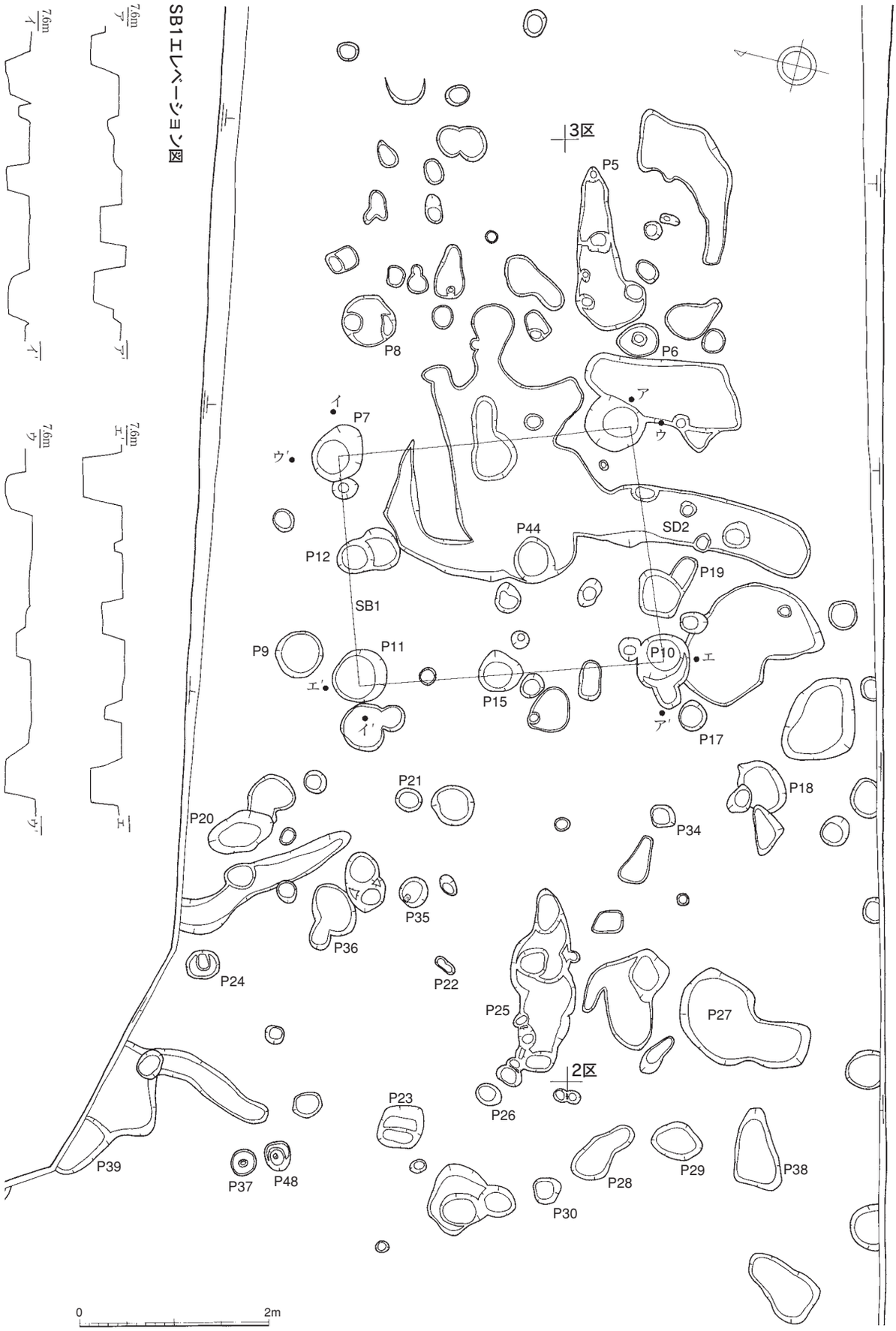
1．調査区割り（第５図）　調査区周囲に設けられていた道路用地杭のうち南東壁に沿う杭１（用地杭№1115）と杭２（用地杭№1119）を結んだラインを調査区長軸に用いた。ただ、杭１・２間が30数ｍと端数であったため、区割り基準軸はこれに平行して４ｍ調査区内に入った箇所に設定し、杭１に平行する杭より東を４区、西に向かい10ｍ毎に３・２・１区と呼称した。なお、委託測量により実施した杭１の観測値はＸ＝108900.848、Ｙ＝－10704.451、杭2はＸ＝108912.051、Ｙ＝－10675.921(平面直角座標第Ⅶ系（世界測地系）に基づく）である。

2．基本層序（第５図）　調査区域は北から南あるいは東へ緩く下る地形をなし、地表面で標高7.8ｍ前後、遺構検出面で標高7.2～7.6ｍを測る。現状は客土され畑地に供されているが、以前は水田であった。これら開墾に伴い一帯は大幅に削平されており、特に西側の１区で削平度合いは大きく、10㎝厚の畑耕作土（１層）直下の遺構検出面にはキャタピラーの跡が残されていた。西側の３・４区では旧水田耕作土（２層）下に褐色粘質の遺物包含層（３層）を残していた。遺構覆土はこの３層あるいは暗褐色粘質の４層である。遺跡ベース土は淡黄褐色シルト（Ａ層）であり、４区杭から西ではその下に南あるいは西に傾斜して円礫を含む黄褐色砂利（Ｂ層）が堆積する。

3．遺構・遺物（第５～７図）　２区を中心に直径30～50㎝のピット（Ｐ）を多数検出した。図化に至らない細片が多いが遺物を出土したものは48個を数えた。用途不明が多いが、形状から柱穴と推測し、直線的な配置を抽出した中から、２区で掘立柱建物１棟（SB１）を復元した。また、番号を付したもので土坑（SK）１基、溝（SD）２条を数える。パンケース１箱弱出土している古墳～平安時代前期の須恵器・土師器等は２・３区からの出土品が多い。



第５図　調査区全体（S＝1/200）・調査区南東壁土層図（S＝1/40）



第６図　２区SB１周辺遺構図（S＝1/60）

第７図　出土遺物実測図（S＝1/3）

報告番号	図化番号	出土地点	遺　構	種類	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調（内）	色調（外）	砂粒(0～2mm)	砂粒(0～4mm)	砂粒(4mm以上)	海綿骨片	調整(内)	調整(外)	焼成
1	Ｄ３	４区/２区	ＳＫ１／中央包含層	須恵器	蓋	14.4	ツマミ径3.1	2.6	灰白色	明青灰色	多	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	並
2	Ｄ16	４区	ＳＫ１	土師器	高坏				暗灰色	鈍橙色	並	微	無	含	脚部ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ？	並
3	木１	４区	ＳＫ１	木製品	板状木製品	長53.5cm、幅8.8cm、厚1.5cm											
4	木３	４区	ＳＫ１	木製品	板状木製品	長13.4cm、幅14.2cm、厚2.9cm											
5	Ｄ６	２区	ＳＤ２	須恵器	鉢	(20.5)			灰白色	灰色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・一部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	並
6	木２	３区	Ｐ４	木製品	板状木製品	長11.9cm、幅15.9cm、厚2.2cm											
7	Ｄ21	３区	Ｐ３	須恵器	坏	(13.4)			灰白色	灰白色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	並
8	Ｄ９	２区	Ｐ５	土師器	壺				浅黄橙色	赤橙色	多	無	無	無	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	並
9	Ｄ11	２区	P10	須恵器	無台坏	12.6	9.3	3.4	鈍橙色	鈍橙色	多	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切	並
10	Ｄ10	２区	P11/P12	須恵器	無台坏		8.2		灰色	灰色	並	無	無	含	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切	並
11	Ｄ15	１区	P39	須恵器	無台坏		8.2		灰色	灰色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切	並
12	Ｄ14	１区	P39	土師器	高坏				淡橙色	灰白色	並	無	無	含	不明	不明　一部ﾊｹ残る	並
13	Ｄ20	２区	P17	土師器	高坏脚部		(19.0)		灰白色	灰白色	並	微	無	含	不明	ﾊｹ 不明	並
14	Ｄ４	２区	中央包含層	須恵器	蓋	13.2			灰白色	灰白色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾔﾔ甘
15	Ｄ１	２区	中央包含層	須恵器	無台坏	13.5	10	4.2	鈍黄橙色	灰色	多	微	微	含	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾔﾔ甘
16	Ｄ22	２区	西半検出面	須恵器	有台坏		9.9		灰白色	灰色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切	並
17	Ｄ５	２区	中央包含層	須恵器	壺？	5.9			灰色	灰色	微	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	並
18	Ｄ２	２区	西半検出面	須恵器	壺	9.7			灰白色	灰白色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		並
19	Ｄ13	２区	西半検出面	須恵器	瓶		(11.5)		灰白色	灰色	並	無	無	無	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	並
20	Ｄ12	２区	中央包含層	土師器	高坏				鈍橙色	鈍橙色	多	微	微	含	指頭圧痕	不明	並
21	Ｄ７	２区	中央包含層	土師器	壺				灰褐色	灰白色	多	並	無	無	ﾊｹ	ﾊｹ	並
22	Ｄ８	２区	中央包含層	土師器	甕	22.4			淡赤橙色	淡赤橙色	多	少	微	含	不明	不明	並
23	Ｄ19	２区	中央包含層	土師器	甕		7.5		鈍黄橙色	鈍橙色	多	少	微	無	ﾊｹ、ﾅﾃﾞ	不明	並
24	Ｄ18	２区	中央包含層	製塩土器					淡橙色	淡橙色	多	微	無	含	ﾊｹ	指頭圧痕・ﾅﾃﾞ	並
25	Ｄ17	２区	中央包含層	製塩土器	尖底				橙色	橙色	多	少	微	無	ｼﾎﾞﾘ、ﾅﾃﾞ	指頭圧痕	並

第２表　出土遺物観察表

第２節　検出遺構・遺物

SB１（第６・７図）　２区に位置する２間×２間の側柱建物。桁行3.3m、梁行2.5m、主軸方位N-18°-W。褐色粘質土を覆土とするＰ７・10・11・12・15等を柱穴とする。南梁中央の柱穴ははっきりせず、軸上に位置するＰ19西側のピットやSD２内の小ピットを間柱とした可能性もある。柱穴掘方は直径約40～60cm、深さ約25～30cm。建物中央やや東から建物東外にかけては、SD２につながる長軸約２m、短軸約1.2m、深さ約10～20cmの不定形土坑が重複する。周辺に被熱は認められないが、土坑内外に堆積する褐色粘質土は微細な焼土粒多数を含み、比較的多量の土師器・須恵器細片、少量の製塩土器片を伴った。Ｐ10出土の須恵器坏身９はＶ期（以下の須恵器編年は、田嶋明人 1989「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会に依拠した）に、Ｐ11とＰ12出土品が接合した須恵器坏身10はⅢ期のものか。

SK１（第５・７図）　４区に位置し、調査区南東壁に接する。不整楕円形を呈し、深さ約７cm、覆土は暗褐色粘質土。１は古代の須恵器坏蓋、２は古墳時代後期の土師器高坏脚部、他に古墳時代後期とみられる須恵器坏蓋、土師器細片が出土し時期幅を持つ。また、内部東側に幅約20cm、深さ約20cmの溝が付随し、溝内部より３・４の板状木製品が出土している。

SD１（第５図）　４区に位置し、長さ約1.8m、幅約30cm、深さ10cmを測る。覆土は褐色粘質土。土師器細片が出土している。

SD２（第6・7図）　２区に位置し、南北方向に伸びる。北側は浅い土坑に接し、SB１に重複する。長さ約2.4m、幅約60cm、深さ約８cm、覆土は褐色粘質土。５の須恵器鉢は推定口径20.5cmを測る。他に製塩土器・土師器細片が20点ほど出土している。

ピット（第５～７図）　SB１周辺に分布するピットは10cm前後の浅いものが多いが、その中でＰ

9・17・19・21南側のピット・30・34～36・39北西側のピット・44などは比較的深く柱穴の可能性を推測する。また、4区ではＰ１やその南に杭１ 方向に向けて並ぶピット群が、3区では3区杭東側に分布する深さ約20～30㎝のピット群が南北に並び、掘立柱建物あるいは塀等の可能性が指摘される。なお､1区では直径70～80㎝の整円形ピットが2個（Ｐ13･14）近接して検出され柱穴かと期待したが、深さは10㎝に満たず、性格は不明であった。図化した遺物のうち、Ｐ４からは6の板状木製品が出土。Ｐ５出土の外面赤彩壺8や2区包含層出土の土師器高坏20、土師器甕22は古墳時代前期に、Ｐ39出土の土師器高坏12は古墳時代後期に、また、16の須恵器有台杯はⅡ期に、無台杯15はⅢ期に、Ｐ３出土の須恵器坏身7はⅤ期に位置付けられよう。2区包含層出土の坏蓋14は内面にヘラ刻み「＝」を持つ。21は丸底で内外ハケ調整の土師器小型甕底部、23は内面にわずかなにハケ調整が残る他は摩耗する肉厚で平坦な底部を持つ土師器非ロクロ甕底部であるが、21･23の器内外は部分的な赤紫色被熱を呈し、21では器表の剥落が認められる。2区のSB１周辺では製塩土器細片が少量出土した。そのうち24は内湾気味の口縁部、25の棒状尖底部はすぼまり気味の内底面にしぼり痕が残る。

第3節　小　　結

花園上田遺跡では、古墳時代から平安時代前期にわたる遺物が出土した。量的には奈良時代以降のものが多い。調査区域は後世の開墾等により改変されており削平を被ったことが考慮されるが、古墳時代の遺構は検出されなかった。調査区中央部で復元した掘立柱建物SB１は8～9世紀中頃に位置付けられ、他に1・2棟の掘立柱建物あるいは塀等の存在が推測された。SB１に重複する浅い土坑内外からは少量の製塩土器片が出土した。焼土粒が混じる覆土中からの、土師器・須恵器片と混在した出土状況からみてこの場所での製塩作業を想定することは難しい。その出自について、海岸部まで山が迫り平野の乏しい灘浦一帯においては、塩や各種海産物の生産・加工が大きな比重を占めたと考えられるものであり、海岸部から約500ｍ離れ、標高7ｍを越える調査地においては、海浜部の生産地からもたらされたものと思われる。なかでも、富山湾を見晴らす段丘端という好立地にあっては、ここを占めた集団にそれら諸作業への関与あるいは従事を考えたく、類製塩土器ともみられる21・23の土師器を積極的に評価するなら、周辺に焼塩作業に関わる施設の分布することも推測され、製塩土器等については2次加工に伴い排出された可能性も示しておきたい。僅少な調査資料からは遺跡の性格も明らかしえず想像の域を出ないものであるが、少なくとも、点々と製塩遺跡が知られる灘浦海岸沿いで、分布空白地であった南大呑地区においても製塩遺跡の存在を考慮する必要性は高まったといえよう。

最後に、本遺跡の北方約11㎞、崎山半島中位の大野木町に位置する大野木タキシロ遺跡は、海岸部まで山が迫り可耕地の少ない灘浦一帯において比較的広範な平地を有し、倉庫様建物跡や緑釉陶器の出土から、塩や海産諸製品の集約・配分や生産体制の管理機構の一端の可能性が示されている（県教委1974）。同様の立地にあって、一帯唯一の古墳群を擁した歴史をもつ本遺跡周辺においても、拠点的な施設の存在する可能性は高いのではないだろうか。発掘調査事例の少ない南大呑地区にあってあえて想像を逞しくし記しておきたい。

遺跡遠景（南東から）

発掘調査着手前の状況（西から）

遺構検出状況（東から）

発掘作業風景（南東から）

完掘状況（東から）

図版 2

完掘状況（南西から）

2 区SB 1 周辺完掘状況（南東から）

3・4 区完掘状況（南西から）

調査地から富山湾を望む（北西から）

図版 4

出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ななおし　はなぞのうわだいせき
書名	七尾市　花園上田遺跡
副書名	安全・安心道路整備事業一般県道花園藤野線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	澤辺利明
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地1　TEL076-229-4477
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
花園上田遺跡（はなぞのうわだいせき）	石川県七尾市黒崎町（いしかわけんななおし くろさきまち）	17202	02020	36度 58分 53秒	137度 02分 47秒	20051013 ～ 20051111	600m²	道路工事 （一般県道 花園藤野線）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花園上田遺跡	集落跡	奈良・平安時代	掘立柱建物、土杭、溝	土師器、須恵器、製塩土器	

要約	古墳～平安時代前期の遺物が出土した。遺構は8～9世紀前半の掘立柱建物１棟を確認し、建物内外からは製塩土器が少量出土した。製塩遺跡が多数分布する灘浦海岸一帯で本遺跡周辺はその空白域であったが、今回の出土品から、花園町周辺においても製塩遺跡の存在が予想される。

七尾市　花園上田遺跡

発行日　平成19（2007）年3月30日

発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
電話　076-225-1842（文化財課）
財団法人 石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地１
電話　076-229-4477
E-mail address mail@ishikawa-maibum.or.jp

印刷　高桑美術印刷株式会社